

令和4年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立多摩高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 副校長＝事務局長、主幹教諭1名、保健総務部主任1名、保健総務部員1名、計4名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、主幹教諭(教務担当)、主幹教諭(生活指導担当)、主幹教諭(進路指導主任)、主幹教諭(進路指導部)、主任教諭(保健総務部主任) 計7名
- (4) 協議委員の構成

PTA 会長	
同窓会会長	
青梅市立青梅第一中学校校長	
青梅市立西中学校校長	
青梅市裏宿町一丁目自治会長	
警視庁青梅署少年係係長	
青梅商工会議所地域振興課 課長	
青梅市民センター所長	

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和4年6月22日（水曜）内部委員7名、協議委員7名(同窓会長欠席)
協議委員委嘱、委員紹介、昨年度の学校運営連絡協議会の課題、本年度の学校経営計画、各分掌の組織目標、本校の現状と課題等説明、意見交換
 - 第2回 令和4年11月17日（木曜）内部委員7名、協議委員7名(PTA 会長欠席)
学校経営計画実現のための教育活動に関する中間報告
協議委員からの教育活動に対する意見、中間報告の内容検討
 - 第3回 令和5年2月16日（木曜）内部委員7名、協議委員7名(同窓会長欠席)
本年度の学校経営計画に関する報告、アンケート結果報告、各分掌の成果と課題
協議委員からの教育活動に対する意見、学校運営の内容検討
次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和4年11月17日（木曜）内部委員3名、協議委員3名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
 - 第2回 令和5年2月16日（木曜）内部委員3名、協議委員3名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

（1）学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」

（2）アンケート調査の実施時期・対象・規模

対象	方法	実施時期
生徒 373 名	HR で概要を説明してから実施	12 月
保護者 104 名	クラッシー配信で実施	12 月
教職員 28 名 管理職を除く	企画調整会議及び職員会議で趣旨説明してから実施	12 月
①地域住民 76 名	自治会長を通じて配布回収	1 月
②中学校 64 名	青梅第一中学校の 2 学期終業式に合わせて実施	12 月

（3）主な評価項目

・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、ライフ・ワーク・バランスの推進(教職員)など

（4）アンケート結果の概要 「とてもよく思う」「やや思う」の合算

①生徒・保護者・教員

※詳細は別紙参照

小数点以下は四捨五入

質問事項	生徒	保護者	教員
学習や学校生活が充実しているか	81%	72%	75%
先生方は協力して教育活動に取り組んでいるか	83%	59%	89%
先生方は分かりやすい授業をしているか	81%	51%	99%
学校の学習が将来に役立つと思いますか	80%	64%	78%
読書活動が充実していると思いますか	36%	23%	32%
社会で役立つルールやマナーを適切に指導していると思いますか	77%	49%	64%
先生は悩みや苛めに真剣に対応してくれていますか	72%	45%	96%
学校に進路に関する資料や情報が整備されていると思いますか	76%	62%	89%
先生は進路の希望に応じた助言をしてくれていますか	76%	56%	86%
部活動が活発に行われていますか	72%	55%	46%
学校行事が活発に行われていますか	70%	66%	60%
学校は生徒の健康管理や安全指導の充実に取り組んでいますか	74%	54%	93%
敷地内の清掃は行き届いていると思いますか	54%	52%	61%
学校は体罰のない指導をしていると思いますか	78%	59%	100%

②地域住民・中学生

質問事項	地域住民	中学生
本校生の登下校時のマナーは良いと思いますか	45%	58%
本校生の身だしなみは良いと思いますか	67%	71%
本校生は言葉遣いや挨拶ができていますか	37%	48%
地域と連携して防災訓練をしていることをご存知ですか	72%	18%
本校生が地域行事に参加していることをご存知ですか	71%	33%
多摩高校は地域の要望に即応していると思いますか	66%	41%

(5) 評価結果の分析・考察

①生徒・保護者・教員

・アンケート対象者は総じて学校生活に充実感を感じていることが判る。このことは、教員が生徒の将来を見据えて協働して分かりやすい授業を展開していることに起因していると思われる。しかしながら、教員の学習に対する取組みについて教員及び生徒と比較して保護者の評価が生徒・保護者の水準に至らないことが今後の課題を示唆している。また、教員が社会で役立つルールやマナーを身に付けさせて、生徒の進路希望に応じた指導を実践していることを生徒が評価している。さらに、教員が生徒に寄り添いながら、悩みや苛めに対処していることを生徒が評価している。しかしながら、生活指導及び進路指導について保護者の評価と開きがあるので、教員の生徒に対する日々の営為について理解を図る必要がある。

②地域住民・中学生

・本校生の身だしなみについては、中学生及び地域住民から一定の評価が得られているが、言葉遣いや挨拶には未だ課題がある。このことが、登校時のマナーにも影響していると思われる。①において、教員が社会で役立つルールやマナーの指導をしていることを生徒も認識しているので、実践に生かしていく指導を展開する必要がある。一方、地域との関係については、活動をとおして地域住民には認知されているが、中学生には本校生の活動の姿が印象に残らないようであるので、中学生とも協働した活動の場を創設していく必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・学校運営連絡協議会協議委員の発言から、「多摩高校がより良い学校、魅力的な学校になりつつある。」との理解を得られたこと。
- ・商工会議所との連携をはかることで効率よくインターンシップの実施が図られるとともに事業所のニーズを認識することが出来た。
- ・事業所側のニーズを進路指導及び生活指導に活用することが出来た。

- (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題
- ・アンケート結果から、本校教員の生徒に寄り添う日々の教育活動等の営為について、保護者に周知理解を図る工夫が必要であることが認識できた。
 - ・アンケート結果から、社会で活用できる生活指導の充実を図ることを通じて、地域の人たちからも好印象をもたれる人材育成を目標にすべきことが認識できた。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

- (1) 学校運営
- ・保護者に対して、学校の教育活動について説明し理解を得る方法を工夫する。
- (2) 学習指導
- ・1人一台端末を活用した事業実践の充実。動画コンテンツの作成。
 - ・地域と協働して地域の資源を活用した授業を展開すること。
- (3) 生活指導
- ・通学路のマナー改善のための巡回指導の実施。インターンシップを通じて得られた社会のニーズを勘案した校則の改定。
- (4) 進路指導
- ・自主的参加型の校内寺子屋が盛況であり且つ成績不審者の進級の成果につながったので、更に成績上位層向けの講座を拡充して進路達成に繋げていくこと。
 - ・何が書かれているかを読み取り、それを自分の言葉で表現する力を育成すること。
- (5) 募集活動
- ・協働した体験活動等をつうじて中学生から本校が好印象を持たれるようにすること。
 - ・効果的な学校説明会、学校見学会の検討。
- (6) 健康・安全
- ・東日本大震災の被災地を実体験する修学旅行に向けた防災教育の充実を図ること。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

- (1) 協議委員人数 8人
- (2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
3	3			1		1

7 その他

- ・保護者のアンケート回収率を更に高めるため、回収方法を含め検討の必要がある。